

## 第2回 霊の戦い

もっとも多くの混乱を教会にもたらしている誤った教えが「霊の戦い」である。クリスチャンは三位一体の神の内住を受けている。聖なる神の内住と汚れた霊の内住が同時に起こりうるか、神学的に考察する。現象から神学するのではなく、神学から現象を見る時、そこに潜む誤りが見えてくる。ペンテコステやカリスマが陥りやすい体験主義を克服する学びに取り組む。

ヨブ記には「サタン」が登場します。

回数は14回です。

1：6、7、7、8、9、12、12、2：1、2、2、3、4、6、7

ヨブはサタンの活動を知りません。

1歴代は1回です。21：1

ダビデはサタンの活動を知りません。

ゼカリア書は3回です。3：1、2、2

ゼカリアは、主によってサタンを幻で見させられました。

人は普段のサタンの活動を知ることができません。

主によって知らされるのです。

サタンは、旧約聖書の中では、ヨブ記によく出てきます。

実は、それ以上にヨブ記において出てくる言葉があります。

それは「全能者」です。

「全能者」は旧約聖書において48回です。

ヨブ記において「全能者」は31回と際立っています。

サタンはヨブ記では何でも自由にできるわけではありません。

神の許可がなければ、彼はヨブに何もできません。

ヨブ記では神の主権が明白です。

ヨブ記では、神が全知であることも知ることができます。

天上における神とサタンの対話を地上にいる人間は誰ひとり知りません。

ヨブの友人たちは、因果応報論で、ヨブの罪が災いの原因と責めました。

ヨブには身に覚えがありません。

友人たちは「全能者」を使います。

しかし、神は「あなたがたがわたしについて真実を語らず、

わたしのしもべヨブのようではなかった」（42：7、8）と言われます。

友人たちは「全能者」を語ります。

神は「わたしについて真実を語らず」と言われます。

神について真実を語らないのはヨブの友人に限りません。

「霊の戦い」を実践する人々は「神」と「サタン」について語ります。

しかし、神の主権をしっかり教えていません。  
もし、神の主権をしっかり語るなら、サタンを恐れる人は少なくなります。  
不安や恐れが減少するでしょう。  
彼らは、神とサタンの戦いという二元論に陥っています。  
更に間違っていることがあります。  
サタンは一人です。  
それなのに、世界中で「サタンよ、出ていけ」と叫んでいます。  
神の前にサタンが出ている時、それ以外の所にはいません。  
どこかにいたら、それ以外の所にはいないのです。  
サタンは偏在ではありません。  
どこにでも存在しているわけではないのです。  
惑わされていることになぜ気付かないのでしょうか。  
それは経験から語り、聖書から学ばないからです。  
経験が何でも正しいわけではありません。  
経験はしばしば主観主義に陥ります。  
これが霊の戦いの誤りです。

アパルトヘイトが南アフリカで長く続いたのは、教会がそれを支持したからです。  
牧師は、自分を愛するようにあなたがたの隣人を愛しなさいに段階をつけました。  
教会は、隣人愛の勧めを、差別を助長する言葉として利用しました。  
それは聖書の教えではなく、イデオロギーです。  
教会はアパルトヘイトを神の言葉で正当化しました。  
そして、それに反対する人に対して不信仰のレッテルを貼ります。  
そう思われたくない人は、教会の教えを受け入れます。  
間違いと発言する人はおかしな人として、悪くすれば追放されます。  
追放は、間違った教会からであり、神からではありません。  
神と教会が必ずしも一致しているわけではありません。  
時には自分で吟味し、信仰と確信に基づいて、声を上げる必要があります。  
自分の良心と信仰を偽って、組織や権威にへつらうのは、精神の墮落です。  
時代が経たないと分からない間違った教えもあります。  
教会による魔女狩りがそうでした。  
今日の悪魔祓いや悪霊払いは、どうでしょうか。  
カルト化した教会では、病気も貧困も、その他不都合なことは全て、悪魔や悪霊の所為にします。

どれだけ多くの信者が、悪魔や悪霊に憑かれていると断定されたことでしょう。悪魔や悪霊を追い出している場面は、集団ヒステリー現象です。

始めは懐疑的な人でも、追放したような現象が起きると、確信へと考え方が移っていきます。

人間は教え込まれた恐怖に反応するのはものです。

民族によって恐怖の対象が違うのはその良い例証です。

自分に悪霊がついていると思い込んだ人、思い込まされた人は、聞いている教えに反応し、現象を演じることがあります。

確信がないために誘導されるからです。

見えない悪霊を見たと言う牧師を霊的だと信じ込み、追従するのは未熟の証明です。

見えないものを見えると言うのは嘘です。

見えると言っているのはその人のイメージです。

霊的権威を装うための言葉に惑わされてはいけません。

クリスチャンは神の神殿、聖霊の宮です。

クリスチャンの中で、神と悪魔や悪霊が同居することはありません。

今日、間違いを正す本より、間違いを広める本が多く出回っています。

惑わされないようにしてください。

霊の戦いを実践する教会で自殺者が出ています。

なぜ、そのようなことが起きるのか、次の本はヒントを与えてくれます。

『帰還兵はなぜ自殺するのか』(デイヴィッド・フィンケル著/古屋美登里訳 亜紀書房)

本の帯には次のように書かれてあります。

「イラク・アフガン戦争から生還した兵士200万のうち、50万人が精神的な傷害を負い、毎年250人超が自殺する。戦争で壊れてしまった男たちとその家族の出口なき苦悩に迫る衝撃のレポート！」

「イラク戦争で最悪なことのひとつが、明確な前線というものがなかったことだ。三百六十度のあらゆる場所が戦場だった。進むべき前線もなければ軍服姿の敵もおらず、予想できるパターンもなければ安心できる場所もなかった。兵士の中に頭がおかしくなる者が出たのはそのせいだった。」(p.30)を読んで、「霊の戦い」をしている人の置かれた環境と心理的状況が重なりました。

彼らの戦場は毎日、あらゆる所で、見えない悪霊や悪魔と戦っています。

いつ、どこで悪魔や悪霊が襲い掛かってくるか分かりません。

絶えず、恐れと不安から、悪霊よ、出ていけ、打ち砕かれよ。

このような言葉をぶつぶつとつぶやき、頻繁に声に出して命じています。

教会員が病気になったら悪霊の所為にします。  
悪霊を追い出そうと「霊の戦い」を実践します。  
悪霊よ、出ていけ！何度も何度も、時には何百回、何千回も追い出します。  
勝利したと思ったら、次に又何かが起きます。  
このように、彼らは霊の戦いを際限なくしています。  
ある教会で、自死する人が多く出ました。  
脱会者は証言しています。  
四方八方三十六方にいる悪霊に対して毎日戦いを続けてきました。  
エペソ書の武装を毎日しました。  
このような人びとの中から、心病む人が出て来ました。  
このような教会を離れても、教えを克服できなければ、戦争は継続中です。  
孤立無援の中で戦いを続ければ心身は衰弱して行きます。  
「戦闘（コンバット）ストレス」を聞いた人はいますか。  
極端な霊の戦いの実践で、コンバットストレスに陥っているのです。  
霊の戦いは不安や恐れを作るだけではなく、自殺を招いています。

#### 関連ニュース

海外派遣の自衛官 54人自殺 インド洋、イラクで活動

共同通信 2015年5月27日 20時55分 (2015年5月27日 20時57分 更新)

防衛省は27日の衆院平和安全法制特別委員会で、特別措置法に基づいてインド洋やイラクに派遣された自衛官のうち、54人が自殺していたことを明らかにした。防衛省によると、インド洋が海自25人で、イラクが陸自21人、空自8人の計29人。

同省は「自殺はさまざまな要因が複合的に影響して発生するので、派遣任務と自殺の因果関係を特定するのは困難」としている。

自衛隊の海外派遣をめぐっては、2001年10月、2年間の時限立法としてテロ対策特別措置法が成立した。政府は海自隊員延べ約1万3千人をインド洋に派遣。また04年1月からは、陸自隊員延べ約5500人をイラクに派遣。